

事業コード	H17-農-再-13		区 分	国庫補助 県単独
事業名	林道事業		部局課室名	農林水産部 森林整備課
事業種別	流域公益保全林整備事業		班 名	林道班 (tel) 018-860-1945
路線名等	北水沢山線		担当課長名	森林整備課長 佐々木誠
箇所名	北水沢山線(山本郡峰浜村水沢)		担当者名	主幹(兼)班長 小滝光和
総合計画との関連	政策コード	N	政策名	豊かな自然と調和した個性あふれる農林水産業の振興
	施策コード	05	施策名	豊富な森林資源の循環利用による林業の推進
	指標コード	02	施策目標(指標)名	林道・基幹作業道密度

1. 事業の概要

事業期間	H07 ~ H19 (13年)		総事業費	7.1億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	森林管理道 幅員4.0m 延長4,300m 利用区域面積562ha						
事業の立案に至る背景	当該区域内には、間伐期に達した豊富なスギ人工林が存在するものの、急峻な地形である他、区域内には道路が1路線もないため、適正な間伐が行われず水源涵養機能が低下している。利用区域は、水沢ダム上流部の水源林で、全て水源涵養保安林であることから、木材生産のみならず、水源涵養機能など公益的機能の維持増進のためにも、早急に森林整備のための路網を整備する必要がある。						
事業目的	水源涵養機能の維持増進を図る。 森林施業の集約化や機械化を通じた効率的な森林施業の実施。 林業生産コストの低減。						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等		
	事業費	1,200,000	710,000	-490,000	前回の再評価による計画の縮小		
	経費内訳	工事費	1,054,318	623,805	-430,513		
		用補費	0	0	0		
		その他	145,682	86,195	-59,487		
	財源内訳	国庫補助	600,000	355,000	-245,000		
		県債	210,000	124,000	-86,000		
その他		300,000	177,500	-122,500			
一般財源		90,000	53,500	-36,500			
事業内容	幅員 4.0m 延長 7,250m	幅員 4.0m 延長 4,300m	延長 - 2,950m				
事業の進捗状況	施工済延長(平成16年度末現在)2,099m 全体計画延長の49% 実施済事業費(平成16年度末現在)488,559千円 全体計画事業費の69% これまでは急峻かつ岩盤箇所であったため開設進度は思わしくなかったが、今後は順調に推移する						
事業推進上の課題	特になし。						
関連する計画等	「全国森林計画」による森林整備目標(林道の開設とその他林産物の搬出に関する事項)に基づき「米代川地域森林計画」に林道整備路線として、当該路線が計画されている。 間伐等推進3カ年対策						
情勢の変化及び長期継続の理由	水源涵養機能等の公益的機能の維持増進のため、早急に間伐等森林施業の実施が必要であり、そのための林道整備が必要である。 京都議定書の発効に伴い、「地球温暖化防止大綱」や「地球温暖化防止森林吸収源10カ年対策」に基づき、適切な森林の整備を着実に進める必要がある。						
事業効率把握の手法及び効果	指標名	県全体における林内路網密度					
	指標式	林内路網密度 = 林道延長 ÷ 民有林面積					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無		
	目標値 a	7.5 m/ha		データ等の出典	林道事業実績報告		
	実績値 b	6 m/ha					
達成率 b/a	80.0 %		把握の時期	平成17年6月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	当該林道の利用区域が世界遺産の白神山地に隣接していることから、自然環境保全のため、路線計画の検討を求められた。
	指摘事項への対応
	利用区域と林道の終点位置の見直しを行い、利用区域及び開設延長を縮小した。

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	当該区域内には豊富なスギ人工林が存在するものの路網が全くないため、森林整備を行うための路網の整備が望まれている。 京都議定書の発効に伴い、地球温暖化防止対策に貢献する森林整備の重要性が増してきている。	13点
緊 急 性	利用区域の過半を占めるスギ人工林は、全てが7・8 齢級の林分であり、水沢ダム上流部の水源涵養保安林でもあることから、早急に間伐を行う必要がある。	10点
有 効 性	区域内有一の路線であることから、間伐の実施や森林資源の循環利用に利用できる。 間伐等の森林施業実施のため、関係者から早期の完成が望まれている。	11点
効 率 性	事業の費用便益比は2.60である。 ・総費用 547,526千円 ・総便益 1,424,865千円 路肩の縮小など更にコスト縮減を図る。	28点
熟 度	施設の管理体制や維持管理に十分配慮がなされている。 全体計画や詳細設計及び施工実施において、環境保全への配慮がなされている。	20点
判 定	ランク () 必要性については、事業の進捗状況から低評価となっているが、スギ人工林が55%を占め、その全てが7～8 齢級の間伐対象林であり、水沢ダムの水源林でもあることから、路網整備の緊急性は非常に高く、引き続き実施すべきである。	82点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止	
	各観点の評価結果から、事業実施箇所としての優先度は高く、事業は継続して実施すべきと考える。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

森林の適切な整備と森林施業の効率化を図る基盤として重要な役割を果たすことから、計画どおりの完成を目指し実施する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の評価及び対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 林道事業

事業コード(H17-農-再-13)
箇所名 (北水沢山線(山本郡峰浜村水沢))

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	計画の進捗状況	事業の進捗状況	計画より進捗している：進捗率100%以上 おおむね計画どおり進捗している：80%～100%未満 計画より遅れている：80%未満	10 5 1	5	
	今後の進捗見込み	課題は解決済みで順調な進捗が見込まれる 課題はあるが、当面進捗に影響がない 課題解決が困難である	5 3 1	3		
	社会情勢における必要性	社会経済情勢変化による需要変化	需要は増大している 需要に特に変化はない 需要は低下している		5 3 1	
	計		20	13		
	緊急性	森林整備状況	要整備森林の占有度	利用区域の4齢級以上の蓄積が70%以上 利用区域の4齢級以上の蓄積が70%未満	5 3	
他事業との関連		他事業との連携	他事業と連携しており、緊急性が高い 他事業と連携が無く、緊急性も低い	5 3	5	
計			10	10		
有効性		開設による有効性	間伐材等の活用	活用可能な全てに活用 一部使用 使用なし、または、検討中	5 3 1	3
	森林整備計画	森林整備計画に対する達成率100%以上 森林整備計画に対する達成率90%～100%未満 森林整備計画に対する達成率80%～90%未満	10 7 5	5		
	上位計画への貢献度	あきた21総合計画	事業の効果達成率が100%以上(事業評価) 事業の効果達成率が80%～100%未満(事業評価) 事業の効果達成率が80%未満(事業評価)		5 3 1	3
	計		20	11		
	効率性	事業の投資効果	費用対効果指数(B/C)	B/C=1.45以上 B/C=1.45未満	10 5	10
コスト縮減の検討		コスト縮減計画	実施している、または、今後実施する予定 実施していない、または、検討中	10 1	10	
計画の効率性		設定工期	設定工期内に余裕を持って完成が見込まれる(80%) 設定工期に完成が見込まれる 設定工期を更に延長する必要がある	5 3 1		3
事業費の増減		当初計画事業費以内 30%未満の増加 30%以上の増加	5 3 1	5		
計			30		28	
熟度	地元との合意形成の状況	事業関係者、関係機関との協議・調整	基本事項が確認済 協議中であるが、特段の問題はない 今後協議する予定	5 3 1	5	
	施設の管理体制	林道管理規定等を制定している 林道管理規定等を制定していない、または、今後制定する予定	3 1	3		
	施設の維持管理	維持管理費を毎年予算化し、適切に管理している 維持管理費を必要な年のみ予算化し、適切に管理している	5 3		5	
	環境との調和への配慮状況	環境保全への配慮	十分に配慮されている 配慮が不十分で、検討している	7 3		7
	計		20	20		
合計			100	82		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		